

島内 晶

明治学院大学大学院 心理学研究科 博士後期課程

虚記憶課題を用いた記憶の変容における加齢の影響

本研究では、記憶の変容における加齢の影響を検討するために、まず虚記憶(false memory)研究の現状と展望を述べ、続いて実験的検討を行った。

高齢者の虚記憶研究では、虚再認率においては若年者との年齢効果が認められるという結果はほぼ一致しているものの、虚再生率では一貫していない。虚記憶の発生メカニズムについては、活性化ーモニタリング仮説、示差性ヒューリスティック、フエジートレイス理論を取り上げた。また、提示刺激の特性や提示モダリティを操作した研究、およびアルツハイマー病患者を対象とした研究について検討を行った。

次に、示差性ヒューリスティックを促進する方法を用いた DRM パラダイムを使用して行った実験について、正再認率と虚再認率の年齢効果を検討した。その結果、若年者の正再認率は高齢者に比べて有意に高かったが、虚再認率では有意な差はみられなかった。